

大阪市港区の人口関係統計資料 (参考資料)

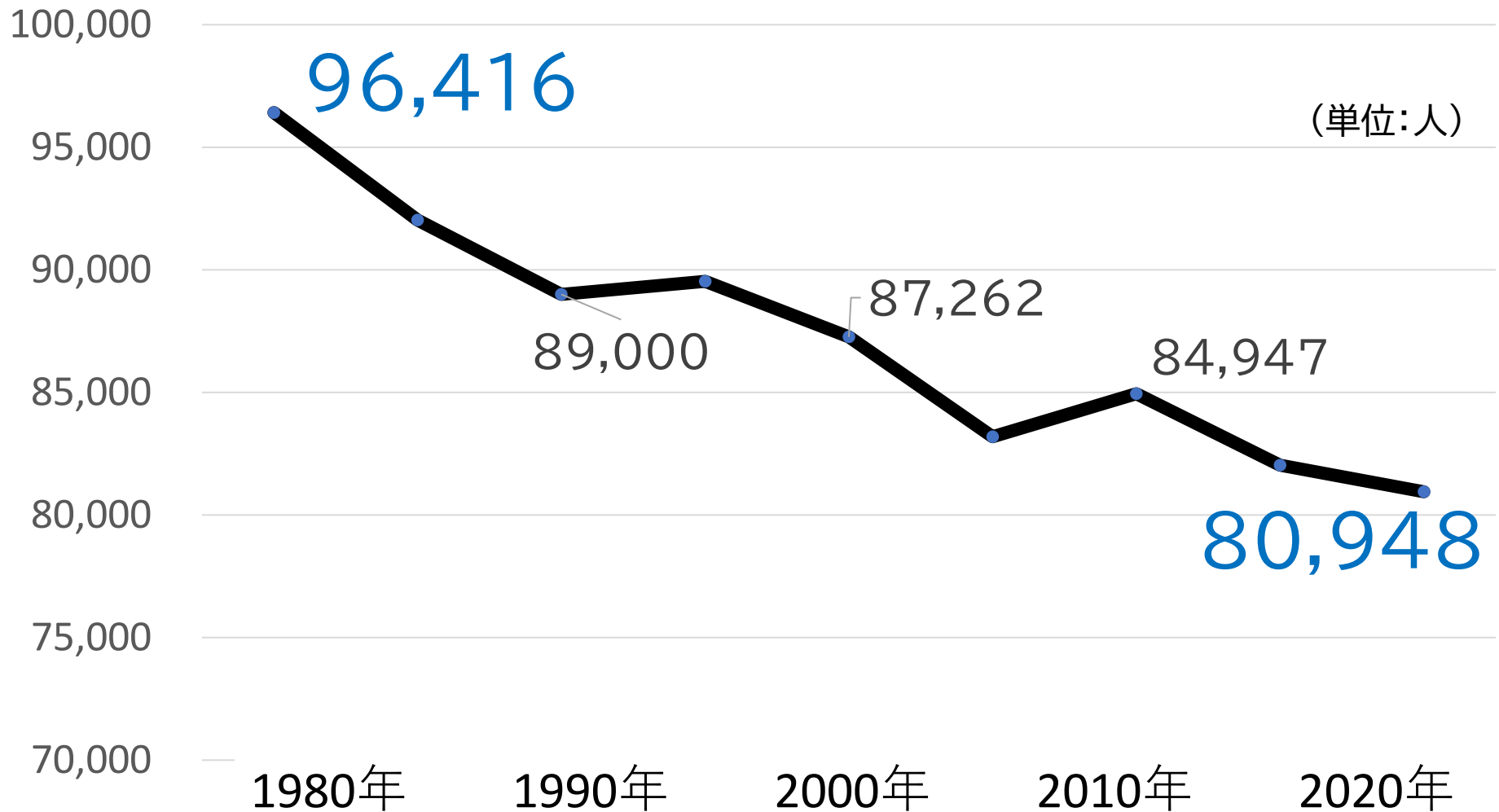
大阪市港区役所総務課総合政策担当
2026年3月



人口 : 80,465人
世帯数 : 47,496世帯
(2025年12月末住民基本台帳人口)

港区の人口推移

(1980年~2020年 各年国勢調査)

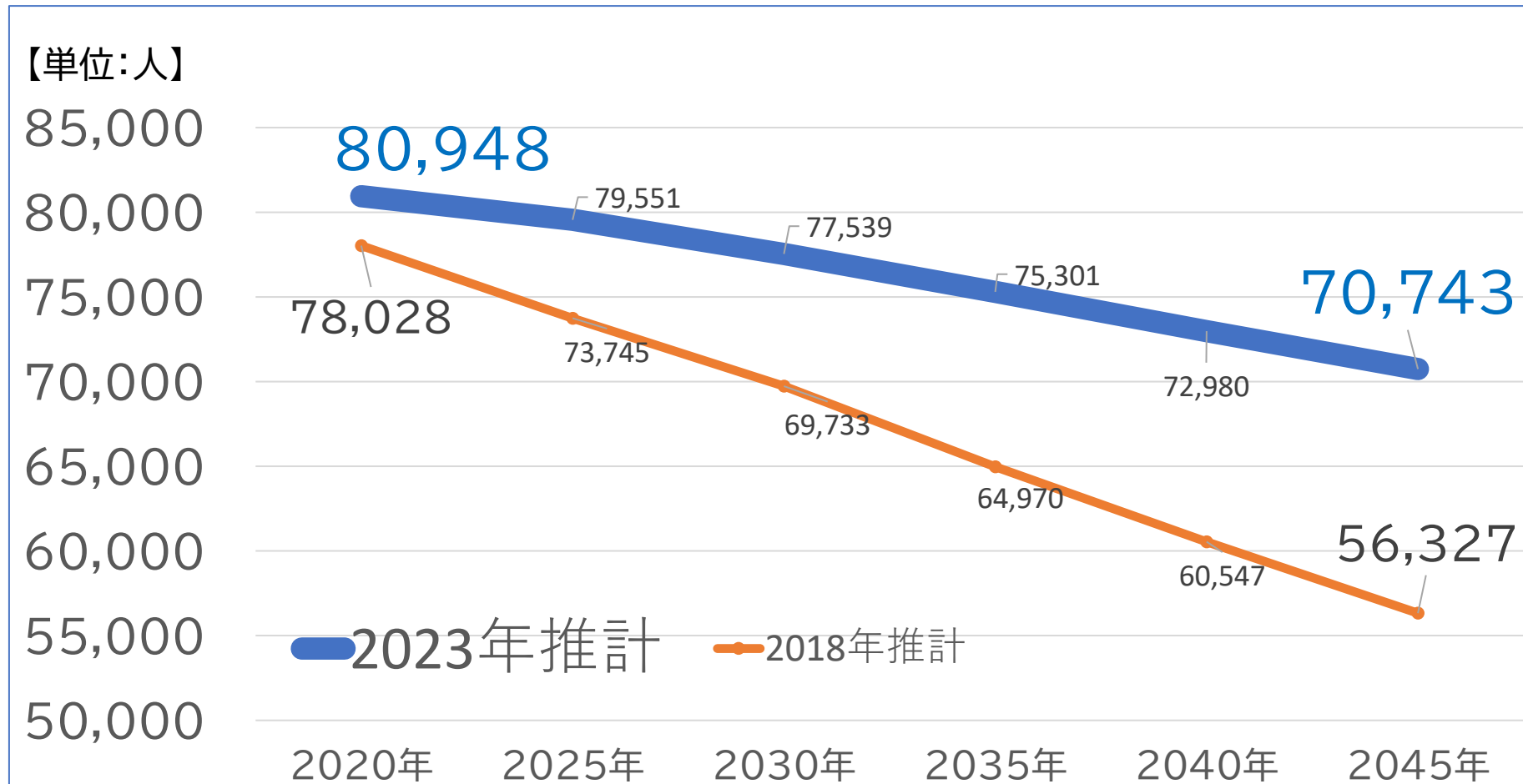


港区の人口は減少が続き、40年間で16%減少している。
近年は減少が下げ止まり、2025年時点でも8万人台(*)を維持している。

*住民基本台帳人口

港区の将来推計人口

(国立社会保障・人口問題研究所公表資料)

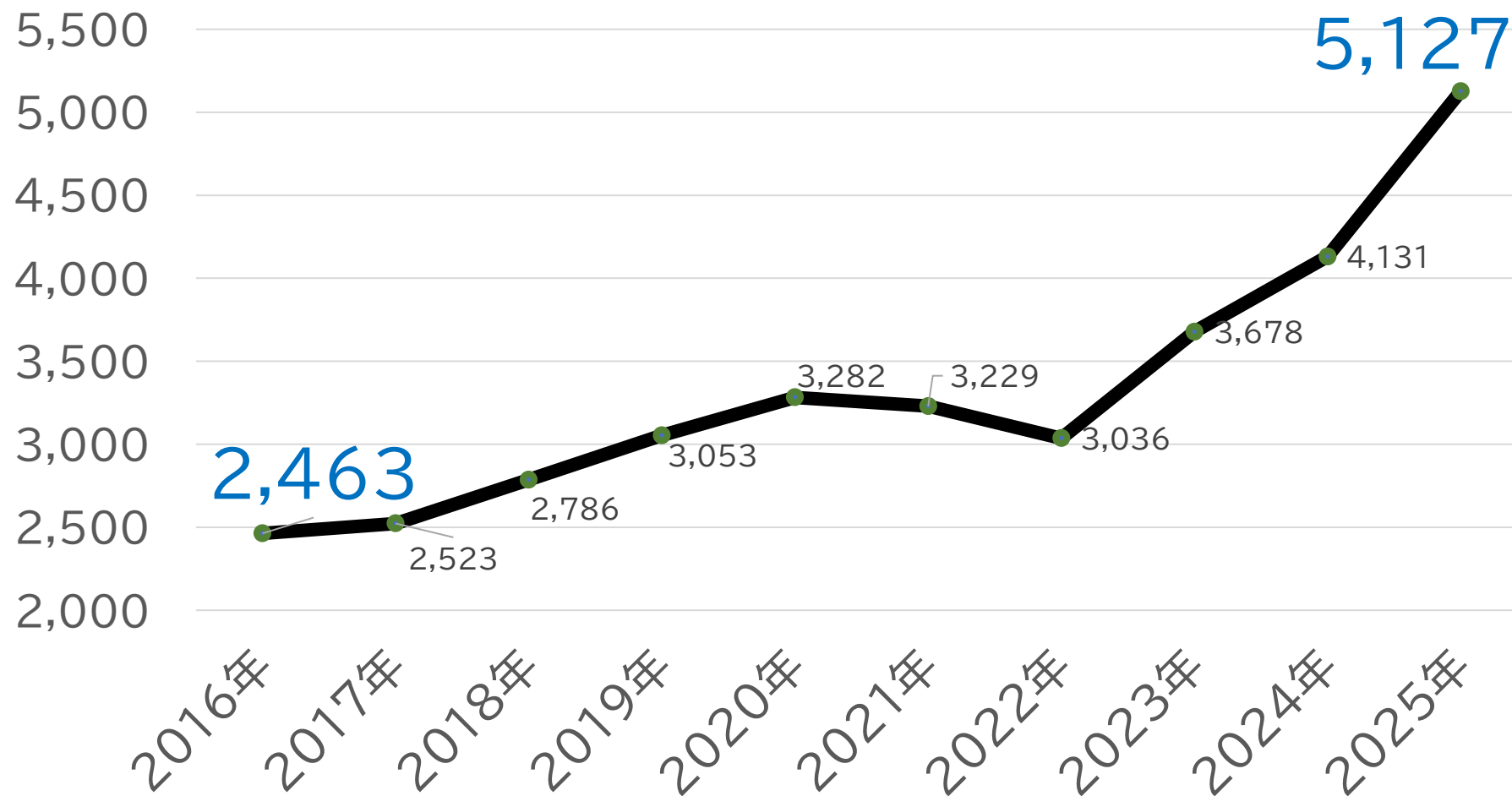


2045年の推計人口は約7万人で、今後20年で1割強の減少が見込まれている。但し、前回の推計(2018年推計)に比べると、減少ペースはかなり緩やかになっている。

港区の外国籍住民人口

(住民基本台帳 各年3月末時点)

【単位:人】

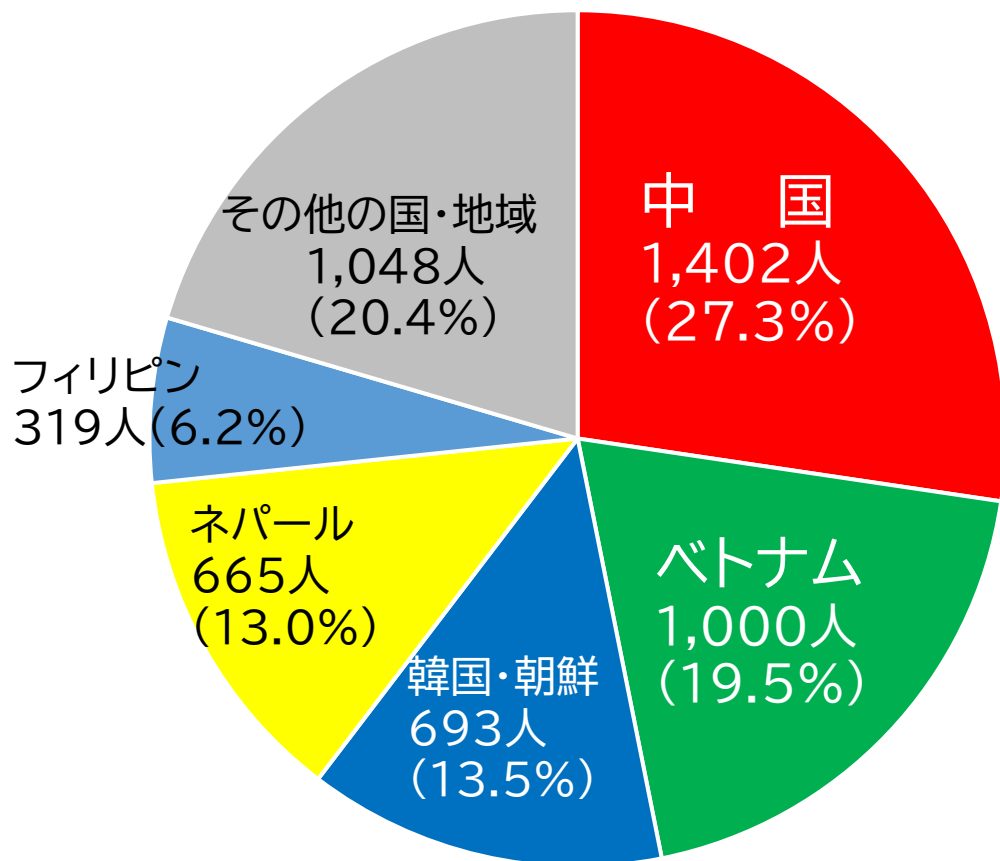


外国籍住民は10年間で2倍強 の約2,600人増加している。人口に占める割合は2016年の3%から、2025年には6.4%(約16人に1人)へ増加している。

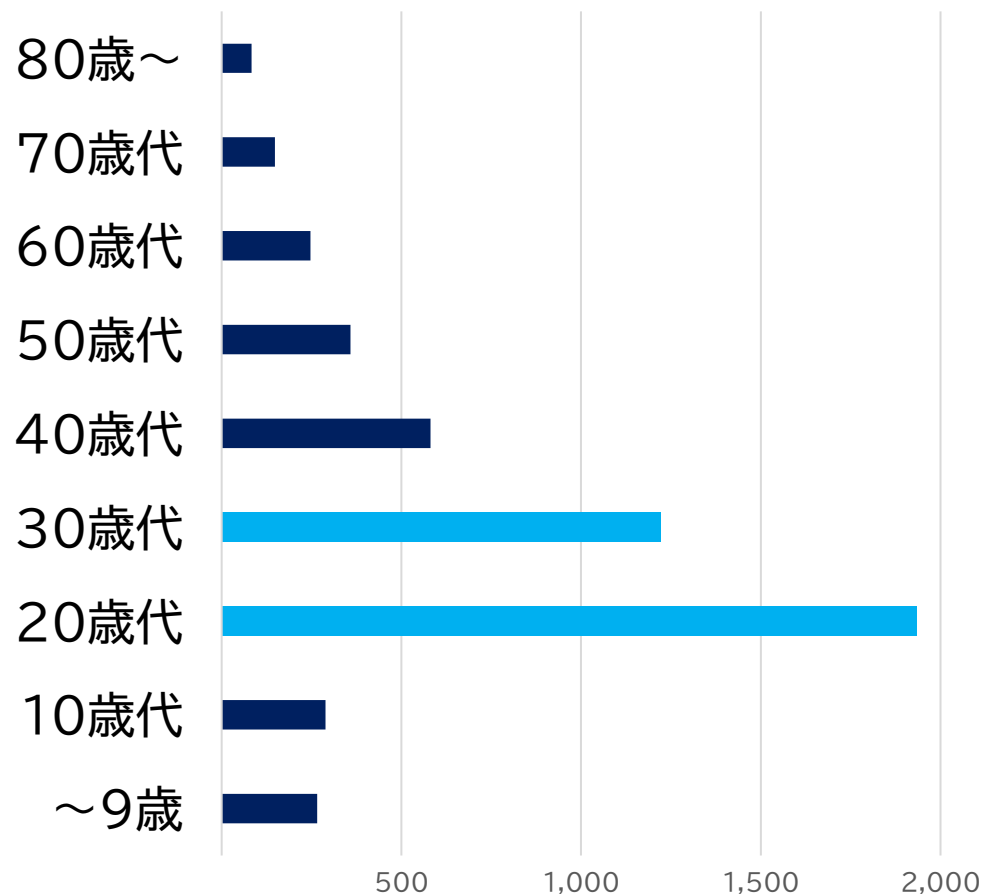
港区の外国籍住民人口

(住民基本台帳 2025年3月末時点 5,127人)

国籍別



年代別



港区に住む外国人住民の国籍で最も多いのは中国、続いてベトナム、韓国・朝鮮、ネパール、フィリピンの順となっている

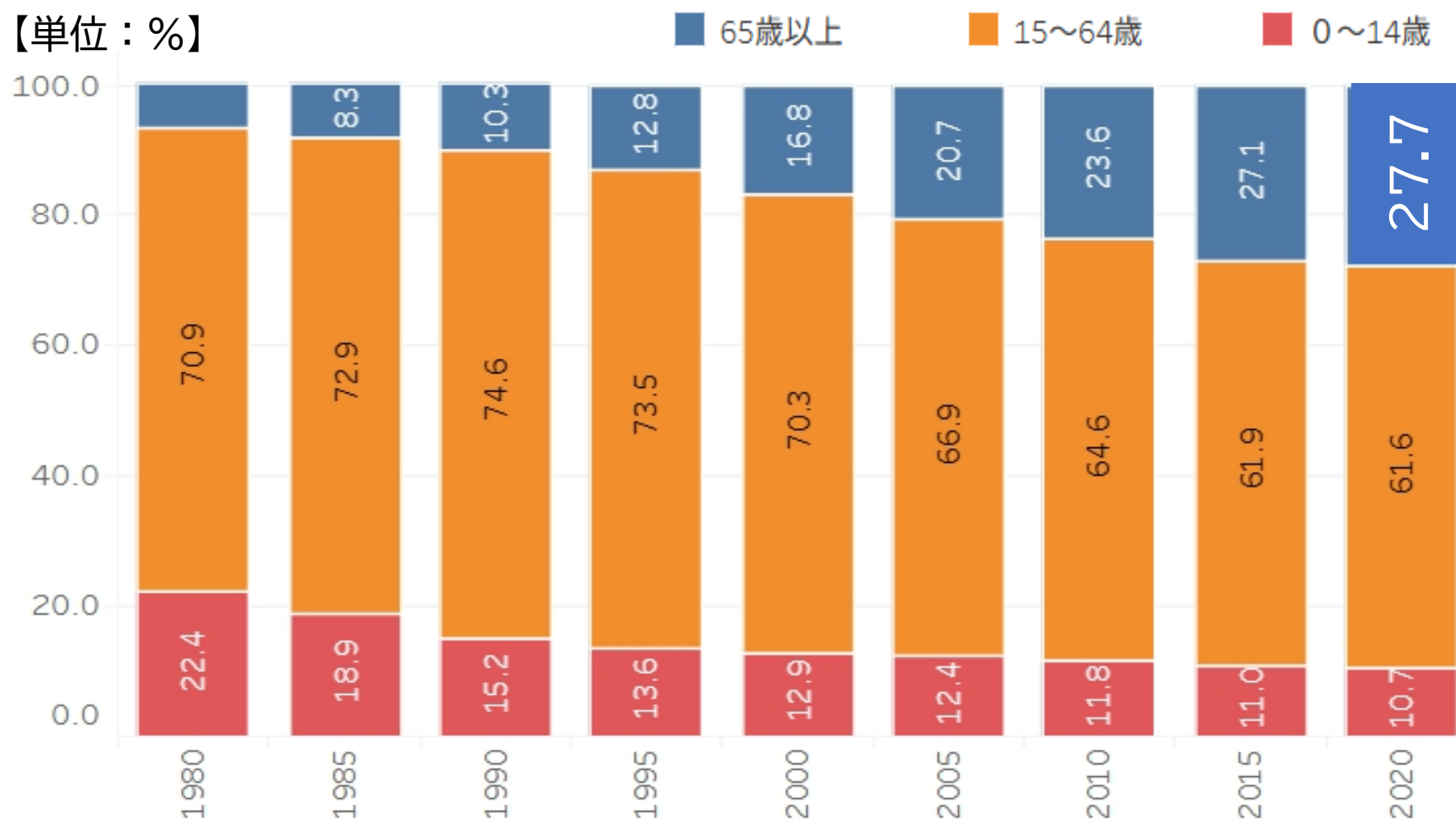
年代別にみると、20歳代が1,934人(37.7%)、30歳代が1,221人(23.8%)で突出して多く、その2世代で全体の6割を超えている。

年齢3区分別人口割合

国勢調査(総務省統計局)

年齢不詳を除いて算出

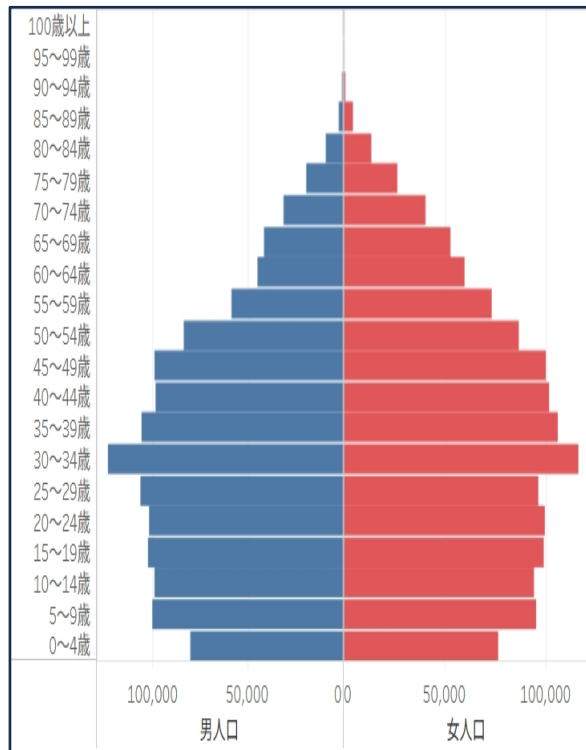
【単位：％】



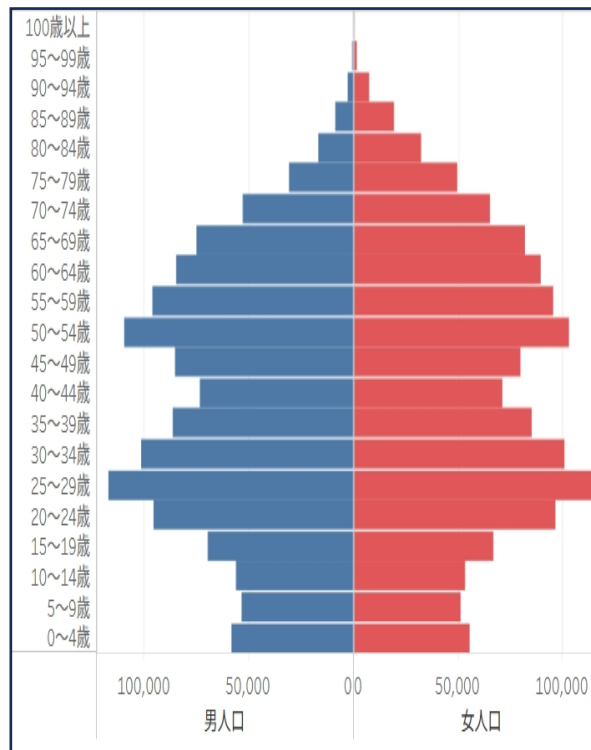
港区の高齢化率は、2020年時点で27.7%に達している。
1980年の約6.8%と比べると、この40年間で約21ポイント増加した。

港区の人口ピラミッド

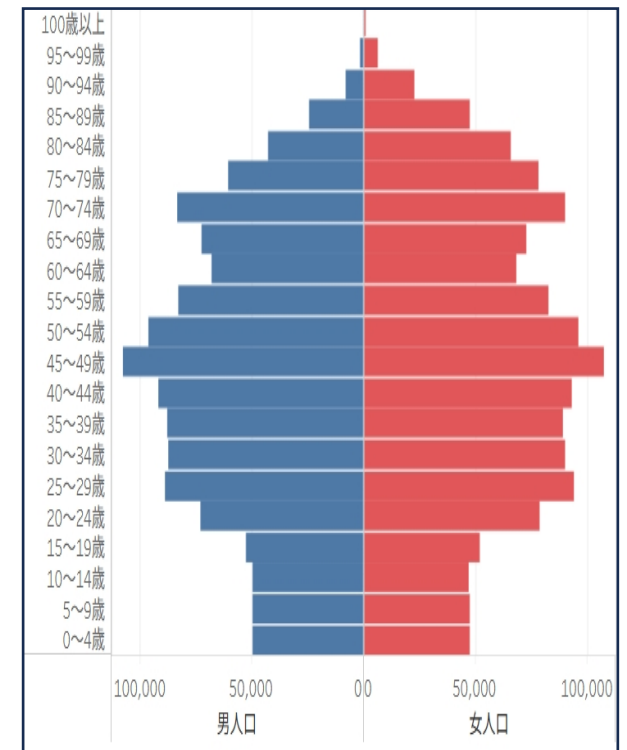
【単位：人】



1980年



2000年



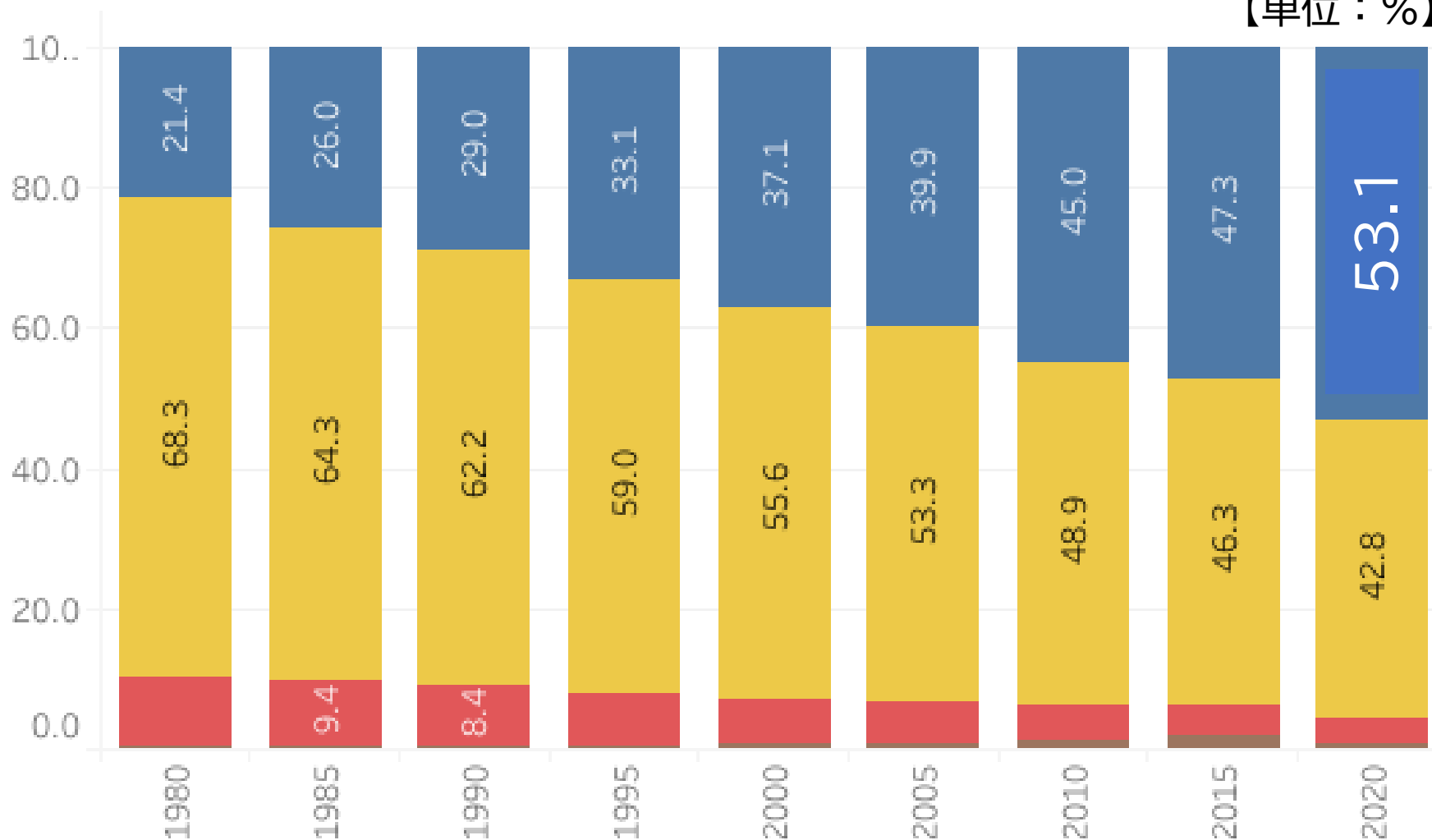
2020年

1980年は、いわゆる釣鐘型だったが、2000年には壺型へ移行した。
これは、0~14歳の割合が減少したためである。

さらに2020年には、後期高齢者の割合が増加していることが読み取れる。

港区の家族類型別割合（1）

【単位：％】



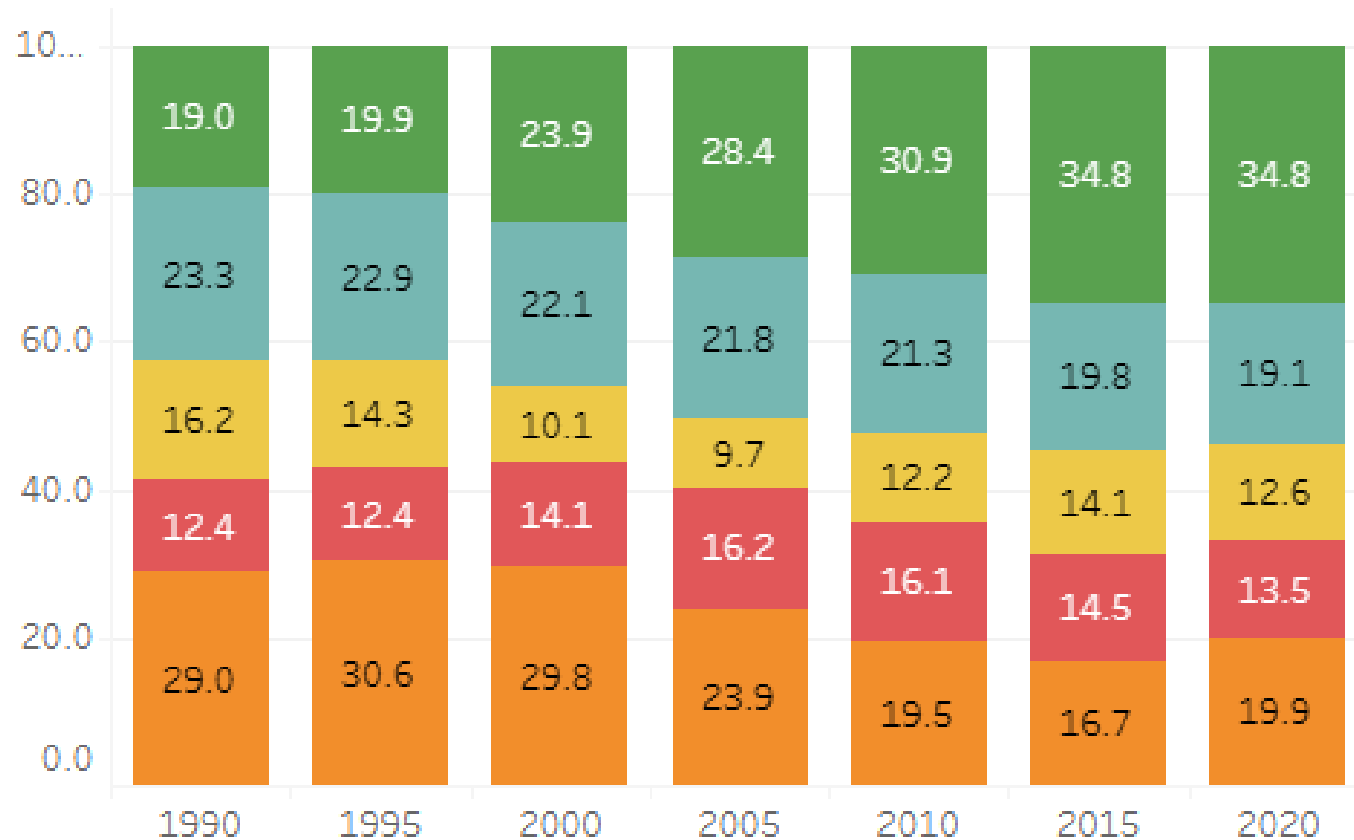
- 単独世帯
- 核家族世帯
- 核家族以外の世帯
- 非親族を含む世帯

港区で最も多いのは、一人暮らし世帯。
全体の半数以上を占めている。

港区の家族類型別割合（2）

【単独世帯のみ】年齢別割合（単位：％） 年齢不詳を除いて算出。

1990年以降。



65歳以上の
単身世帯
34.8%

■ 65歳以上 ■ 40-49歳 ■ 29歳以下
■ 50-64歳 ■ 30-39歳

一人暮らし世帯のうち、約3分の1が高齢単身世帯。
つまり、港区全世帯のうち約6分の1を占める